

# ゲンゴロウ

*Cybister japonicus* Sharp  
コウチュウ目・ゲンゴロウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

## 選定理由

元々生息範囲が限定される希少種であったが、現在県内で確実に繁殖している生息地は数か所にすぎない。福井県産動物の中で最も絶滅の危険が高い種の一つ。

## 分 布

本来は琉球列島を除く国内のほぼ日本全域に分布していたが、大半の地域で絶滅した。県内でも一部市町に僅かな個体が残存するのみ。

## 種の特徴

体長 34～42 mm。日本産ゲンゴロウの中で最大種。前胸背板及び上翅の大部分は緑を帯びた黒色で、黄褐色の側縁を持つ。主にため池に生息する。幼虫は捕食性、成虫は動物の死骸等に集まる。

## 生息を脅かす要因

愛好者による捕獲圧や、ため池の消失、アメリカザリガニやオオクチバス等の侵略的外来種の定着、農薬散布による生息環境悪化等が挙げられる。

参考文献 環境省 (2015)、森・北山 (1993)、上野ら (1985)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○				○	○	○				○	○			○	○	○

# コガタノゲンゴロウ

*Cybister tripunctatus orientalis* Gschwendtner  
コウチュウ目・ゲンゴロウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

## 選定理由

本県では記録自体が大変少なく、現在確実な繁殖地はない。本県で本種が最後に捕れた公式記録は 2008 年である。

## 分 布

北海道を除く国内のほぼ日本全域に分布するが、本州の大半の地域では絶滅した。西南日本に多い傾向があり、そもそも本県が安定的な産地だったかは疑問が残る。

## 種の特徴

体長 24～29 mm。日本産ゲンゴロウの中では大型種だが、その名の通りゲンゴロウよりは明らかに小さい。前胸背板及び上翅の大部分は緑を帯びた黒色で、黄褐色の側縁を持つ。主にため池に生息する。幼虫は捕食性、成虫は動物の死骸等に集まる。

## 生息を脅かす要因

愛好者による捕獲圧や、ため池の消失、アメリカザリガニやオオクチバス等の侵略的外来種の侵入、農薬散布による生息環境悪化等が挙げられる。

参考文献 保科 (2009)、環境省 (2015)、森・北山 (1993)、野原・河野 (2003)、嶋田・富沢 (2014)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
				○	○	○	○					○					

# マルケシゲンゴロウ

*Hydrovatus subtilis* Sharp  
コウチュウ目・ゲンゴロウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

## 選定理由

平成 27 年に本県から初めて記録された。個体数は多くないうえに判明している県内の生息地は一か所のみである。

## 分 布

北海道を除くほぼ国内全域に分布する。しかし、県内で記録された生息地は一か所の農業用ため池のみである。

## 種の特徴

体長 2.4～2.7 mm の小型ゲンゴロウ類の一種。形態は同属近縁種コマルケシゲンゴロウと酷似しており、確実な同定は雄交尾器を見る必要がある。池沼や湿地に生息する。成虫は水生動物の死骸等を食う。

## 生息を脅かす要因

池沼や湿地の消失、農薬散布による生息環境悪化等が挙げられる。また、県内の生息地には侵略的外来種であるウシガエルとアメリカザリガニの生息が確認されており、それら外来種による生態系の破壊が懸念される。

参考文献 森・北山 (1993)、西原ら (2015)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
													○				